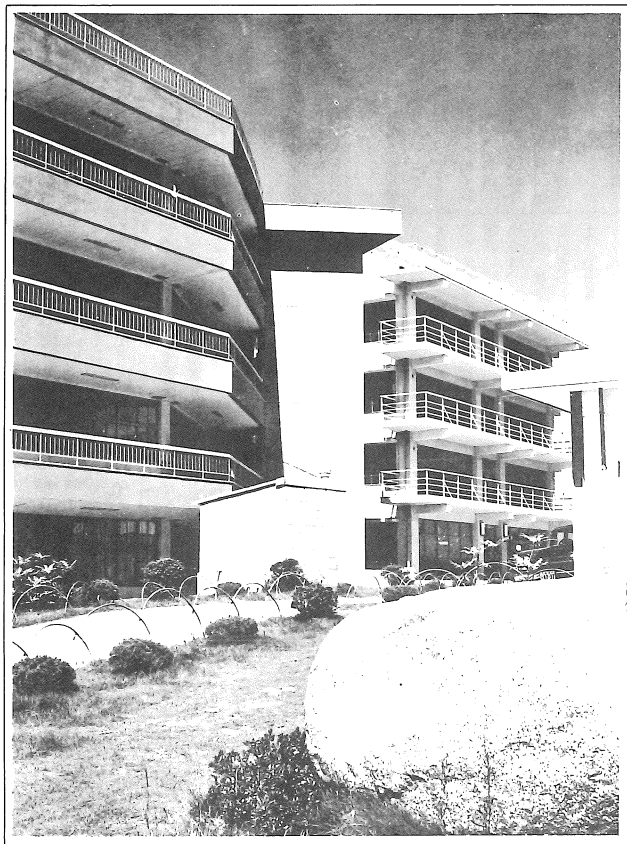
第4号
昭和49年10月1日

大阪産業大学校友会報

発行所　大阪産業大学校友会
（大阪産業大学内）
大東市中垣内3の1の1　〒574
電話(0720)71-1251(内線200)
発行責任者　大阪産業大学校友会
堀川孝
印刷所　(株)新晃社
東大阪市川俣537番
電話(06)788-8421(代)



就任のごあいさつ

学長　巽　巖

前学長木平孝男先生ご退任のあとをうけて、不肖私が新たに学長に就任いたしました。この機会に貴重な紙面を拝借してご挨拶を申しあげることができますことを無上の光栄と存じ、深く感謝いたす次第であります。

学長の任務の重大なことは申すまでもありませんが私は本学での勤務年数が短かく、その間深く本学の行政に携わったこともなく、本学の事情について理解の不十分な点がまだ多く残されておりますので、果してこの重責を全うしうるや否や、木平前学長の大きなご業績を拝見いたすにつけ、心中深く恥らいを感じつつついに就任を決意した次第であります。しかし、生来不敏の上、浅学非才でありますので、今後は校友諸賢の絶大なご協力とご指導により、微力を尽くして誠実に職責を果したいと念願いたしておりますので、よろしくご教導のほどをお願い申しあげる次第であります。

大学本来の使命は申すまでもなく「真理の探求」の一線に貫かれていると同時に、大学はその社会の「高等教育」の場でもあり、この二つは不可分一体性の大学の機能であります。大学がこの機能を全うするためには、人的、物的条件が満たされていなければならないのに、わが国の私立大学は貧困な財政のために、つねに劣悪な条件に置かれてきたのであります。これに対する永年にわたる私大側の政府に対する強力な援助の要望と、最近の世論の高まりにより、政府は「私立大学振興法案」をつくって私大に対する財政援助を法的に強化しようとしていることは政府の、私大政策の一歩前進として高く評価し早期実現を待望しているのであります。しかし、大学が真にその機能を発揮するには、物と人との充足だけでなく、大学構成員たる教職員・学生相互間の精神的なギャップを埋めて、各構成員が相互信頼の基盤の上に立って大学の健全な発展のために、日常的に行動するよう、おたがいの努力と工夫が緊要と考えられます。

学園の古い歴史の上に創立された本学は未だ若年で発展途上にあり、物心両面の新旧種々相が交錯している中で、先進大学を範として、脱皮成長に向って全力投球を続けているのが現状でありましょう。

私は就任以来大学の真の発展成長は、全学構成員が相互の信頼感によって堅く精神的に結合されていることが特に重要と考え、そのために努力をしているのでありますが、短時日で成果をあげることは困難でありますのでいっそうの努力を続けたいと思っております

一方、私は空しい私学競争心からではなく、本学の社会的使命を顧みて、将来本学は学部・学科の増設のみでなく、大学院の設置をも目指して規模・内容ともひとまわり大きな大学にしなければならないと考えています。そのためには私学にとって何をおいても財政基盤の確立が先決であり、財政の安定成長の必要が叫ばれるゆえんであります。教学の発展も財政の安定なくしては不可能であります財政危機に発する私学危機が叫ばれてからすでに久しく、今日になってようやく政府の私学対策が前進の兆を見せておりますが、本学園としても自力対策を真剣に考えねばならないと思っております。

本学の発展の根本は安定財政の上に築かれた構成員全員の相互信頼から生れる精神的融和と、今後ますます発展される層の厚い校友との親密な連けいと、その強い後ろだてであります。校友各位のご賢察とご協力を切にお願いいたしますとともに、校友会ならびに会員諸賢のますますのご発展を心からお祈り申しあげます。

さらに母校愛を！

昭和38年交通短大運輸科卒
校友会副会長　梅木春雅

「偉大なる平凡人たれ」われらの母校大阪産業大学創立者、瀬島源三郎大先生のことばであることはご存じのことと思います。

この味わい深いことばに励まされて勉学し、卒業された校友会員諸兄の皆さん改めてもう一度このことばを吟味し、母校の方へ眼を向け心を寄せて静かに在学当時を思い起してみようではありませんか。

社会人の純真な心のふるさと、それは自己の若き時代に学問を修め究めた出身校であると言われます。われらの懐かしの母校は月日と共に発展し名実ともに充実完備した立派な学園になりました。

名峰生駒連山の麓、自然に包まれ、清く空気の澄んだ、小鳥のさえずる広大な佳境に近代建築のみごとな校舎が建ちならび、紅顔の元気な若者が学問に研究にまた、文化活動に体育に思う存分青春をぶつつけ躍動しています。これらの学生たちは先輩であるわれわれ卒業生が在学中に培った伝統と校風を受け継いで、さらに飛躍して母校の名誉を高めるべく最善の努力を続けているのであります。また、心身ともに未熟で青二才であった私たちを親切に導いてくださった子弟愛豊かな諸先生方も至極健在です。教えられる者、教える方、さらに事務局の諸先輩など、みんな心を一にしていかなる困難をも克服し、共に手を携さえ情熱を燃やしてダイナミックに前進しているのがわれらの母校の姿であります。

われわれもこの気魄と実績に応えるべく、さらにさらに母校愛を高めてゆかねばならないことを痛感するのであります。

もうすぐ創立五十周年の記念すべき年を迎えるに至り、卒業生の数すでに八千名をかぞえ全国に散らばっています。これに伴って、校友会も着実に成長発展していく絶好のチャンスが訪れてまいりました。いまこそ会員各位のいっそうの奮起を望み、先輩後輩の別なく、遠近の別なく、社会の荒波の中で、それぞれの職場において活躍中の産大出身のスマートでやる気のある紳士たちの心を結集して母校と共に進展して行く時機は到来し、機は熟しているのであります。

このたび全国にさきがけて「大阪産業大学、校友会岡山県支部」が誕生し、会員の心の結束の口火が切られ、次々に各府県ごとに支部を結成しようとする気運が盛り上っているのは誠に喜ばしいことであり望むところであります。どうか皆さんの格段のご支援ご協力をお願いし、目標達成のはやからんことを念願するばかりであります。このことについてのご意見、問い合わせ、相談などの必要があり次第遠慮なく校友会事務当局へ連絡されますようおすすめします。

なにかの縁（えん）があって同じ大学で学んだわれわれが校友会という眼に見えない糸で結ばれている現在、より温い旧交を深めるため、心のふるさとを大切にするため、相互に親睦の手を伸ばして友好の握手を交わそうではありませんか有名人でなくてもよい、世を沸かすスターになれなくてもよい、金満家でなくてもよい、ただの平凡人でもよいのだ、本分をわきまえてひたすらに与えられた職務を、責任もって完遂し社会に役立つ人となれ、と諭された恩師の冒頭の教訓を胸に刻み込み、不滅の産大建学の精神を堅持して将来に向って力強く前進しようではありませんか、そしてさらに熱烈な母校愛に徹しようではありませんか、このような筋金入りの産大風紳士になるべく努力を積み重ねてゆきたいと思います

八千名の校友の皆さん、やがて開催予定の創立五十周年記念行事には奮って参集され、新たな希望を見出し、また新風をも吹き込んでくださることを切望いたします。

学生助成金報告

昭和四十八年度の学生助成の選考が遅れていたが、四十八年度の成績を対象に六月十三日の代議員会で助成金額を次の通り決定した

一、野球部　六万円
一、スキー部　三万円
一、少林寺拳法部　三万円
一、躰道部　二万円
一、アメリカンフットボール部　一万円

七月十日藤野学生課長立合いで林監事より各クラブ部長に表彰状と共に各金額を手渡された。

訃報

▼元工学部長、土岐五郎先生が去る四月二十五日死去されました。先生は昭和四十年四月一日、工学部教授にご就任されてより、教育者として多くの卒業生を社会に送り出されました。一方工学部長並びに学園理事として、大学の発展に多大の貢献をされました。

告別式は四月二十七日自宅において、しめやかにとりおこなわれました

▼工学部教授、森島鎮雄先生が去る八月十三日死去されました。先生は昭和四十七年四月一日、工学部教授としてご就任されてより機械設計、設計製図を担当され教育者として、多くの学生から慕われた。告別式は八月十五日しめやかにとりおこなわれました。

海外生活思い出の記②

熱砂と石油の国　サウジ・アラビア

対日感情について……

昭和３４年自動車工業科卒　江本和史

想い出の記の続きを海外で書くことになり、その内容もおのずと現在の感情が入ってくるかもしれませんが、なるべく前回の記憶を辿り書くことにします。

前回の渡航の際は、大変な国にやって来たという感じが非常に強かったけれども、今回は何もかも良く知っている他人の家に行った様な感情を私に抱かせたから不思議でなりません。この様な感情の持主が、対日感情云々ということは、少しおかしいかと思いますが以下感じた事を記すことにします。

彼達の精神構造を歴史的に考察してみると、食物の十分でない土地で、遊牧の生活を過ごすためには、掠奪と闘争の習慣が生まれ、隊商を襲撃し、オアシスの住民を攻撃するだけでなく自分達相互間にすら掠奪行為を敢行したりする生活をおこなっている彼達でありまた、一方、自然の脅威を忍ぶしかほかに道のなかった遊牧民にとっては、諦めの念が生じたとしても、むりからぬ事であります。だが同時に彼達は、来客に対する歓待の義務を重要視することになりました。これは時として、弱者の求めに応ずる一種の侠気ともいうべきものを示す場合もありました。しかし客人に対する歓待の念はアラブ族に限られたものでなく、広くイスラムに共通する美徳と考えられていた。（岩波新書—蒲生礼一著—イスラムより）これらの事より我々日本人に対する感情が良かったのは、前者のためであろうか、後者のためであろうかと考えられるれるけれども、私は後者であってほしいと思うし、またそう考えるのです。また人間の感情は、心から相手に接するならば、どうして始めから悪感情を抱いて相手に接する人がありましょうか。という意味では、日本人はかつて、歴史的に見ても、アラブの地に侵略をした事のない民族であり、彼達も安心して我々に接すると考える事が出来るのではないかと思う。だから彼達の我々に対する親近感を裏切る行為を、日本人がどこかアラブの地で行ったとすれば、我々に対する感情の変化は当然起りうるものであると考えられる。そう考えると我々の行為が彼達の日本全体に対する今後のいしずえとなると思えば、重要な役割を我々はになっていると思います。

山を独り彷徨した末に、人里に近ずき、人と接した時の感情、これが彼達と接していて感じられるのですこれは彼達が遊牧の民であったためでしょうか。しかし私は日本人が忘れてしまっているなにか、郷愁の念を彼達は持っている様に感じるのは私一人ではないと思います。

外国生活をしていて、早く日本に帰りたいという感情を持つのは理解できるが私としてはさほど強く感じないのです。私が風変りであるせいでしょうか。それとも、その中にある程度溶け合っているためでしょうか、もし溶け合っているとすれば、彼達の日本人に対する国民感情は最高のものであるというほかないと思います。しかし酷しい自然との戦いにうち勝った民族であるという誇りが彼達にはあり、やはり外国人に対する相入れないものが、そこには感じられるのはしかたがない事と思うのです。

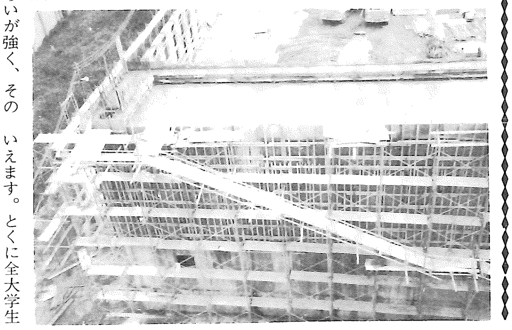
総合体育館の建設について

大学事務部長　理事　浦上三雄

去る五月から待望の体育館の建設が始まりました。既に施設の概要についてはお知らせしましたので、ここでは体育館の建設に寄せていささか所感を述べたいと思います。

体育館の建設については過去数年来学生諸君の要望が非常に強かったので、昭和四十七年理事会において昭和四十八年度着工を目途に建設計画を進めることになりました。しかし、体育館の建設には多額の経費を要するので、学園紛争以来再建途上にあり、財政的基盤の脆弱な本学としては、将来にわたってかなりの財政的負担を覚悟しなければなりません。それに、最近のインフレによる建築資材の異状な高騰は初期の計画を大きく狂わし、一時は実現不可能かとも懸念されましたが、関係業者等の協力もあってやっと着工の運びになりました。これによって来年の卒業式および入学式は本館において盛大に挙行されることになると思います。この体育館の設計は大学としてはぜいたく過ぎるのではないかとの意見もありますが、これが単なる体育をする施設というだけでなく、大学の総体的な環境に調和させようとする将来のビジョンを考慮に入れ外観ともに特別の苦心が払われていることを認識していただきたいと思います。

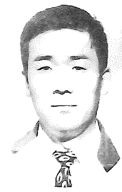
本学は、近き将来学部学科等の増設により、学生数約一万名規模にまで発展させたいと考えています。目下長期的な展望のもとに校地や施設設備の拡充と、大学にふさわしい環境を造成するための計画を進めつつあります。この体育館の建設も、その一ページを飾るものとして意義あるものといえます。



大学は一般に知識社会といわれますが、これが単なる知識を切り売りする構造物の集合であってはなりませんしかし、最近の世相はとかく知識偏重のきらいが強く、そのせいかバランスのとれていない人が多く見受けられます。これは国の教育政策、家庭教育および社会教育だけではなく教育機関にも大きな問題点があり、反省と今後の対策が重要な課題といえます。とくに全大学生の約八十%を収容する私立大学は、大衆大学として多様な社会的要求に応えてゆかねばなりません。端的にいって教育機関は、知育、徳育および体育とバランスがとれ、社会に寄与できる人材を育成することが社会的使命と考えます。その意味において体育館は、その一端をになう重要な役割を果すものといえます。

大学として、社会的使命を果してゆくための内容を充実するためには、どうしても健全な財政的基盤の上に立って計画的な施策と年月が必要です。理事会は、今後とも厳しい社会的、経済的諸情勢を克服しながら本学発展のための、絶ゆまざる経営努力を続けていきたいと思います。

母校を卒業して振り返った現在



昭和41年交通短大自動車工業科卒　新古武

我々の職業も試練の中にあり厳しい現実に直面し、それに適切に対処しえない場合は明日は保障されない大問題に迄発展し、つくれば売れ、売れば利益があった好況の期待はむつかしく今後益々その度を加えていく。テンポの激しさ環境の中にあって絶えず、自分の職務遂行能力を伸ばしていない人は事実上その職務要件から脱落しつつある現在私は母校大阪産業大学（大阪交通短期大学）を卒業し今日のトヨタカローラ大阪（株）に入社、当初からフロント職務につき、一日八時間の間に何十人のお客様と応待し、プロとしてのプラスアルファー増販に努力し、その成果が月末にグラフに現われる「仕事のやりがいはここにある」自分の努力に於て貢献の測定が出来、コンテスト実施中などは五日間おきに測定が表れる、私は色々の職業があるが自動車業界ほど変化の早い楽しいやりがいのある職場はないと今日現在でも思う、その意味で学校入学選択方法として母校を卒業した事を名誉に思っています昨年のある日校友会の通知が迷いこんで来た、通学時代交通機関の悪い中、お互に寒い時助け合った友、学窓時代を思い浮かべながら今どのようにしているやろか？……私は当時本社サービス責任者として日頃部下の指導に於いて大切な礼儀作法、誠心の心のこもった表現力、エチケットこそ我々サービス部の前進につながる、基本姿勢を徹底教育しているやさきに、入社希望又は面接に当社の窓口に訪ずれた五人の学生の態度といい服装、気品を左右する様な言葉使い、現代流でいえば、フィーリングがカッコいいというか、フロントマンの仕事は毎日のように人と人との出逢いが多いので、特に学生五名の印象が悪くフロントマン及び受付嬢がぶつぶつ言っているので、学生の学校名を聞くと、大阪産業大学と耳にした時は卒業生として、プライドを持って来た自分が恥かしく先輩として思はぬ屈辱を感じ、又自動車専門大学（短大自動車工業科）かと思うと自分も大きく反省させられる材料になりました。だがこの学生五名も自動車業界に入社されるでしよう……

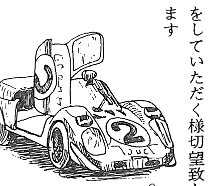
入社当時はすぐれた能力技術を持っている事は、誰れもが認めてくれるだろうが、学校教育の課程で学んだ色々の事はすべて社会に出る前の準備であり常に市場は変化し、学校で学んだ専門知識を生かしうるにはもう少し自分をよくみつめるべきではないかと考えます。

即ち大阪産業大学短期大学部とは自動車業界えのプロスペシャリストをめざす姿が入学ではないでしょうか?、ビジネスマンにせよ一朝一夕でプロになれるわけではないし、プロの道は厳しい中で自分に打勝ち自分を向上させる事が必要と考えます。

私はサラリーマン人生を分析して見て、総てを一〇〇%として見ますと専門大学卒業で三〇%である事を肝に銘ずるべきで、残る七〇%が人間性だと思います

私がここで特に言いたい事は人との折り合いを考えて入社されてこそプロスペシャリスト専門学校卒の値打が出る様に考えます。なぜなら自動車業界ほど人々の交際が多く、激しい場はないし技術知識も必要であるが、むしろウエイトの大きいのは人間性です。技術三〇%十人間性七〇%＝一〇〇%の重要な人間性としての中で第一印象が悪ければ機会損失の最大のロスであるし、その意義を真剣に考えないと、思はぬ人生の障害に乗上げる事もあります。自分の意志で自己を管理し、常にプロとしてのプライドを見失なわないでカウンセラー医師としての使命と誇りで入社、訪問されてこそ、先輩も喜び、母校の価値感に増々磨きがかかり繁栄の大きな要因としてはFeetuse未来指向Free自由な考えに立っての常識Feeling、専門大学の感覚のセンス、理解判断力と多くの事を見、聞き、話す、学ぶの視野、見識の広さかと思います。

春になると我がトヨタカローラ大阪（株）にも数多くの若き整備士が夢を持って入社して来ます、学歴を見ると大学卒もおれば短大卒もいるし、大卒、短大卒の人間こそ専門的な知識と社会人としての要素は高卒の人よりも多く身につけていてあたりまえだと思います。専門大学への意義とは私は高校卒の人達よりも優れた認識と自分の見識の広さにあると思います、生意気な様ですが母校を思い後輩の皆様を考えるに私の経験から以上述べました様な事柄を十分認識し自己研鑽をしていただく様切望致します



校友会だより

「香川県支部」発足す！

四国にも支部が出来ました日本全国に網の目のように支部を結成しよう。

大学の卒業生も毎年、増加の一途をたどっており、卒業後の就職先も北は北海道から、南は沖縄まで広範囲に分布しております。このような中で、同県人でありながら高等学校が違っていれば、ぜんぜんわからないといったことがおこっています。同じ高校でも先輩と後輩が、産業大学を卒業しても面識もないという不都合なことも多いのではないでしょうか。

このようなことから、校友会の代議員会でも、支部結成の促進をはかるため討議がかさねられ、予算にも支部助成金二十万円が組み込まれてあります。

今年にはいって、二月に岡山県支部の結成を契機として、今回は香川県支部が結成されることになりました。

香川県においても、前々から支部を作る話は、たびたびあったのですが、今回は、橋本修洋君の多大な努力により、発足することになりました。香川県における産大の卒業生は、約百三十名おり、その中の有志が善通寺市に八月十八日に集り、協議の結果、その日より発足の運びとなりました来年一月の高松における地方入学試験の支援（二〜三名が手助を行うこと）について話し合った後、懇談がもたれました。在学中の思い出のかたらいの続く内に次回総会には多数の参加者を呼びかけることをとりきめ閉会しました。

名称　大阪産業大学校友会　香川県支部
連絡先　善通寺市上吉田町一〇七の二　橋本運送内　〒七六五
TEL　〇八七七六・二・二〇七〇（代）
支部長　橋本修洋
副支部長　梅木俊郎
監事　楠本明郎
顧問　真田卓克

新任にあたっての抱負

教養部部長　西山勝次

昭和二十三年に発足した新しい学制による大学も、二十五年間経て、ようやく効罪を明白にしてきた。専門課目は、そのまま社会に技術や技能で寄与するものであり、一般教育課目は、高校と、専門課程の間にはさまれた基礎科目であると考られる傾向が強くなった。

加えて、教養部の教員は一般教育課目の意味を自負と自信をもって学生に教える努力が充分でなかったこともあって、教養課程を学習する学生として、不満足と、不信を持たせることにもなった。大学紛争の中で教養部の意味がとり上げられ、多くの要因と共に検討された。その反省は何であったか。大学の「教育」であった。しかし管理者である文部省のいう「教育」と現場にある大学の意味する「教育」は、「大学の自治」「学問研究の府」を基本として相容れない結果を招き、大学管理法についての解釈の対立となった。大学の教育は、高等な技術、技能、知識、或は専門的な技術、技能、知識を教授する場だけではない。戦後いち早く、大学に一般教育科目が設置された「理」を知ればうなずけるであろう。

また、大学改革の中で考えられた、綜合科目のことを考えれば、わかるであろう。さて、今回校友会の方に依頼されまして、新任の抱負をということで紙面を汚すことになったのですが本学の独自の立場から教養部について云えば、大学全体が拡大方針ならば、教養部は一学部として立たなければならない。縮少の方針であれば少なくとも全学共通の場の中心となって、綜合科目が教科課程の七〇％を占有するようにしなければならないだろう。

一般教育科目は、既成学部の自尊と利己を排して、学部間の共通の学問指向が生まれなければ、理解されまい。一般教育科目と、語学と、体育を包含している教養部の現状は新しい学問指向の中心であらねばならない。

校友諸君にお願いする

経営学部部長　斉藤嘉一

経営学部卒業生の就職率は、第一回生以来ずっと好調を続けているが、これには主な原因が、二つあるように思われる。日本経済の高度成長と卒業生の勤労振りの好評とである。

昭和二十年代以来の、日本経済の高度成長は、企業に、年々多くの、学校卒業生を吸収して来た。しかし最近のエネルギー危機や公害問題は、企業活動を、大いに制約するに至ったからやがて、就職戦線にも、悪影響するのではないかと惧れられる。もしそうなるとしたら、われわれは、どんな心構でいなければならないか。

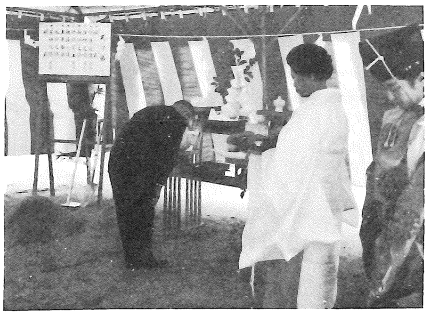
私はそれは、他大学の卒業生との競争に、負けないだけの実力を、養う以外にないと信んずるものであるいつの世でも人手は要る。

実力のある者は必ず就職出来るのである。学生諸君に、こうした自覚を植付けて勉励させるのは、正にわれわれ教師の責務であり、微力ながら力を尽したいと思っている。先輩校友諸君の、益々のご支援とご鞭撻をお願したい。

次に、本学の卒業生つまり校友の皆さんは、おとなしく真面目で、よく働く、といった評判をよく耳にする。先輩に対するこうした好印象が、後輩たる新卒業生に対して、採用申込の殺到する原因だと思う。これは全く、先輩諸君の努力のお蔭であり、真に感謝に堪えないところである。本学は卒直に言って、尚一流大学とは言えず、ここに学んだ諸君も、世にいわゆる秀才たちばかりでなかったかも知れないが、今日社会より、かくの如き評価を与えられるに至った所以のものは、校友諸君が、卒業後も本学の教育目標を体して、努力した結果に外ならないと、私は信んじ、心より敬意を表するものである。と同時に、今後も精進を怠ることなく、それぞれの職場において真に有用な人材となって活躍されるようお願いしたい。このことはご自分のためばかりでなく、ひいては母校の名声を高め、後輩の発展にも寄与することとなるわけである。校友諸君の一層のご自愛とご精励とを、喪心よりお祈りする次第である。

近況

体育館建設工事開始さる！



多年懸案事項であった体育館の建設については、過日、施工業者が、大末建設株式会社大阪支店に決定し去る五月二十三日、理事長長藤友三郎先生並びに創立者、瀬島源三郎先生をはじめとして、多数のご参席のもとに地鎮祭が執り行なわれ、同日よりいよいよ工事が開始された。なお、竣工は来年三月中旬の予定。

諸物価高騰の折、体育館建設に日夜ご努力下さいました関係者の諸先生に深く感謝すると共に、今後の我が母校の発展を祈願する次第です。

原稿募集

校友会々報編集部では会員諸兄の原稿を左記の要領で募集しておりますので、どしどしご投函下さい。

- 職場だより
- 近況報告
- 郷土紹介

４００字詰原稿用紙に２～３枚程度

昭和４９年度予算

収入の部

科目	金額	摘要
前年度繰越金	4,677,587	
前受会費	1,000,000	卒業生 2,000×500名
前受会費	8,000,000	入学生 4,000×2,000名
雑収入	500,000	利息・総会会費他
合計	14,177,587	

支出の部

科目	49年度予算	比率	摘要
会議費	400,000	8.57	総会他
通信費	350,000	7.49	40×8,000
印刷費	50,000	1.07	日常事務
備品購入費	50,000	1.07	カードケース
旅費交通費	150,000	3.21	旅・宿泊費
慶弔費	20,000	0.43	
消耗品費	350,000	7.49	カード他
会員名簿	300,000	6.42	
機関誌	700,000	14.99	年３回
記念品費	800,000	17.13	ソノシート他
学生助成金	450,000	9.64	２年分
支部助成金	200,000	4.28	
調査費	100,000	2.14	
記念事業費	500,000	10.71	大学創立10周年
予備金	250,000	5.35	
雑費	0		
積立金	0		
小計	(4,670,000)		
預り金	9,0000,000		前受会費
次年度繰越金	507,587		
合計	14,177,587		

昭和４８年度決算書

収入の部

科目	予算額	決算額	増減額
前年度繰越金	6,435,585	6,435,585	
会費収入	4,400,000	5,980,000	1,580,000
寄付金	—	104,000	104,000
雑収入	200,000	125,422	△ 74,578
合計	11,035,585	12,645,007	1,609,422

支出の部

科目	予算額	決算額	増減	摘要
会議費	200,000	305,920	△ 105,920	総会166,800 代113,020他
通信費	150,000	148,610	1,390	会報114,400 入会1,539
印刷費	150,000	22,885	127,115	日常事務
備品費	50,000	25,000	25,000	書庫
消耗品費	50,000	45,465	4,535	封筒 36,500他
旅費交通費	—	17,800	△ 17,800	岡山支部
会員名簿	867,000	867,000	0	867×1,000
機関誌	300,000	242,500	57,500	6,500部
学生助成金	300,000	10,000	290,000	フエステバル文化会
記念品費	200,000	100,000	100,000	筒代
支部助成金	200,000	63,000	137,000	岡山支部
調査費	200,000	71,360	128,640	就職課
会館準備金	6,000,000	6,000,000	0	定期預金
雑費	—	47,880	△ 47,880	慶弔他
(小計)	(8,667,000)	(7,967,420)	(699,580)	
次年度繰越金	2,368,585	4,677,587	2,309,002	
合計	11,035,585	12,645,007	1,609,422	

校友会館建設準備金

科目	金額	摘要
会館準備金	6,000,000	昭和48年度繰入金
合計	6,000,000	

昭和49年度大阪産業大学校友会

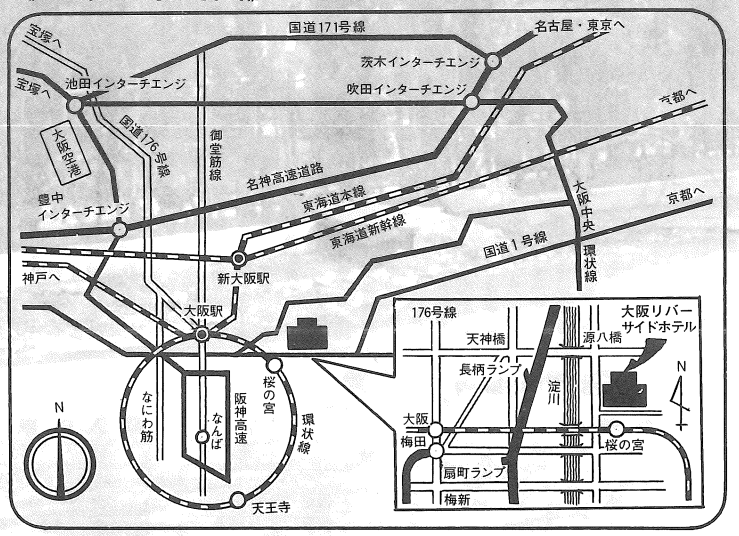
総会案内

- 日　時　11月2日(土)　PM2:00
- ところ　大阪リバーサイドホテル
- 会　費　¥2,000
- 記念品　出席者全員に記念品贈呈

大阪リバーサイドホテル

大阪市都島区中野町5－10－160
TEL06（928）3251(代表)

《会場ご案内図》



〈お　願　い〉

- 会場予定並びに会員名簿の充実をはかる為、会員諸兄の住所及び勤務先及び出欠をご記入の上、同封のハガキをご投函下さい。
- 総会当日ご出席の方はホテル及附近に駐車場がございませんので、電車・バスの交通機関をご利用下さい。

入学案内

＊ 大阪産業大学
＊ 大阪産業大学短期大学部

〔募　集　要　項〕

- **募集学部**　経営学部—経営学科
  工　学　部—機械工学科・交通機械工学科・土木工学科
  短期大学部—自動車工業科
- **試　験　日**　推薦入試と受験入試があり、推薦入試は工学部は昭和49年12月14日(土)・経営学部は12月15日(日)・短期大学部は書類選考
  一次入試は昭和50年1月26日(日)
  試験地　本学・名古屋・金沢・高松・広島・福岡・鹿児島
  二次入試は昭和50年3月11日(火)
- **学校案内**　入学試験要項ご入用の方は下記へご連絡下さい。
  〒574　大阪府大東市中垣内3－1－1
  大阪産業大学入試事務室
  TEL　大東0720(71)1251（内線203・209）

＊ 大阪鉄道高等学校

〔募　集　要　項〕

昭和50年度大阪鉄道高等学校の生徒募集要項は一部未定ですが決定しているのは下記の通りです。

- **募　集　科**　普通・商業・土木建築・電気・自動車・機械の各科
- **試　験　日**　昭和50年2月14日(金)筆記試験

学校案内生徒募集要項の必要な方は下記へお申出下さい。

〒536　大阪市城東区古市1丁目20番26号
大阪鉄道高等学校入試係
TEL（06）939—1491